

発見がいっぱい 伊丹市昆虫館

学芸スタッフはどのような仕事をするの？

伊丹市昆虫館は、生きた昆虫とのふれあいや学芸スタッフこだわりの企画や展示を通じて、自然の大切さや環境の変化を感じることができる施設です。同館スタッフがどのような仕事をするのかを紹介し、同館の魅力に迫ります。問い合わせは、市昆虫館Tel.785-3582へ。

伊丹市昆虫館はどのような昆虫館？

関西最大級の規模を誇るチョウ温室や、約13万点の昆虫標本、個性的な特別展や企画展などを開催しています。「昆虫のうんこ標本」や「モズのはやにえ標本」のコレクション、オガサワラハンミョウやフサヒゲルリカミキリなどの絶滅危機に瀕した昆虫類の保護増殖は、同館ならではの取り組みです。

学芸スタッフは何の仕事をするの？

同館には、カメムシやクワガタ、イモムシなどの昆虫や植物を専門とする学芸スタッフが6人います。

昆虫の世話をはじめ、昆虫標本などの収集保存、虫に関する質問対応や市内学校園での授業、一般向けの観察会、市内動植物の調査、同館ミュージアムショップ商品の管理・開発、市民団体や関連施設などのコラボ事業など多岐にわたります。今回はチョウ・生態展示室担当のスタッフのある1日(左図)を紹介します。

【チョウ担当】

①飼育スタッフ3人で約500匹のチョウを毎日飼育しています。チョウの種類に合わせた餌を与えますが、餌となる食草は、昆虫館や市内の農場で育てているほか、沖縄の農場からも定期的に取り寄せています。②哺乳類調査は、センサーカメラを設置して行います。同カメラは赤外線を照射し、動物の体温を感知するカメラで、昼夜問わず自動撮影ができます。2017年から同カメラを昆陽池公園に設置して哺乳類の生息状況を調べており、キツネやタヌキが生息していることが分かりました。

【生態展示室担当】

③特定外来生物のアルゼンチンアリを根絶するために、調査をしています。④標本は、本市や近隣地域に何種の昆虫がいるのかなどを知る手がかりになる基礎資料です。館内に展示して、来館者に実際の大きさや特徴を視覚的に知ってもらうこともでき、新たな発見にも繋げています。

人間生活と昆虫などの生き物たちの生活が離れている今こそ、同館を訪れた人が「伊丹にもいろいろな生き物があること」「多様な生き物たちが関わり合い生きていること」などいろいろな発見をし、生命や自然の大切さに気付いて欲しい。同館スタッフは熱い思いを胸に、今後もさまざまな企画を開催していきます。



① 皆さんが笑顔になってくれることが最高のやりがいです。



前畑さん



学芸スタッフのある1日

時刻	出勤	退勤
08:45	出勤	出勤
	展示の虫の世話(開館準備)	展示の虫の世話(開館準備)
09:30	開館	開館
10:00	①チョウの幼虫の世話	③アルゼンチンアリの調査
11:00	②哺乳類調査	
12:00	昼休み	昼休み
13:00	昆虫の調査	④標本の作製
14:00		
15:00	企画展の準備	
16:00		事務仕事
16:30	閉館	閉館
17:30	退勤	退勤



長島さん

カメムシを研究しています。アリも大好きで、勉強中です。



伊丹の広場
学芸員知識

クワガタムシはいつ頃から活動しているの？
気温が日ごとに高くなり、さまざまな昆虫たちが活動し出す季節になりました。しかし、昆虫とひとことで言っても、種によって活動する時期が異なります。人気者のクワガタムシも例外ではなく、種や生息している場所によって活動する時期がさまざまです。

というのも、日本には北海道から与那国島まで45種58亜種、計103種類ものクワガタムシが分布しているからです。市内にはコクワガタ、ヒラタクワガタ、ノコギリクワガタ、チビクワガタの4種のクワガタムシが生息しています(チビクワガタは体長が1センチ程度で大アゴが発達せず、クワガタムシと認識されにく



樹液を吸うノコギリクワガタ

い形態です)。これらは平地に生息し、私たちにとって身近な存在ですが、時期的にはいつ頃から活動しているのでしょうか。夏休みの昆虫と思われがちですが、実は意外と早い時期から活動を始めています。

筆者は市内で、コクワガタが樹に登っているのを4月30日に観察したことがあります。地域にもよりますが、コクワガタやヒラタクワガタは5月中旬には活動を始めています。これらの体色が黒くて平たい「クワガタムシ」は、木の洞や樹皮の隙間に身を潜めて生活するため、捕食者にも見つけにくいいためか、10月頃まで姿を見ることができま

また、過去にはその形態から「水牛」と呼ばれたように、大アゴが大きく発達し優美な湾曲を描くノコギリクワガタは、身近なクワガタムシの代表格と言えるでしょう。

しかしながら、その活動時期については実際に野外で観察すると面白いことが分かってきます。筆者による大阪府内の平地における観察では、6月上旬にはオスが活動を始めていて、同月中旬下旬にはたくさんの個体を観察することができました。

実は、梅雨の最中に発生ピークを迎えているのです。7月に入るとオスが少なくなっていく、代わりにメスの方が目立つようになります。同月下旬以降、樹液が出ている場所はほぼカブトムシに占領されて、ノコギリクワガタはちらほら見かける程度になってしまうのです。

このように、身近なクワガタムシは夏休みの1カ月以上も前、子どもたちだけでなく、多くの人に気付かれない時期から活動を始めています。

(昆虫館学芸員 田中良尚)

5月15日～7月15日 企画展「奇蟲」



ムカデ・サソリ・カギムシ・タランチュラなど、奇妙な生きもの「奇蟲」を紹介します。生体は常時20種以上を展示します。



7月20日～11月25日 特別展「カブクワこれくしょん」



日本と世界のカブトムシ・クワガタムシ大集合。昆虫の中でも人気のカブトムシ・クワガタムシの種類や形態、生態などの多様さを知り、魅力に迫ります。

* いずれも、要入館料。当日直接、会場へ。

入館料

大人	中高生	3歳～小学生	0～2歳
400円	200円	100円	無料

【開館時間】 9:30～16:30 (入館受付は16:00まで。チョウ温室は10:00から)

【休館日】 毎週火曜日(火曜が祝日の場合は翌日休)、年末年始

市内在住・在学の3歳～中学生は入館無料(要証明書)。障害者割引、シニア割引あり。詳しくは同館ホームページ(右二次元コードから読み取り可)で確認を。



昆虫館

利用案内